

第17回 下野市行政改革推進委員会会議録

日 時 平成21年2月2日(月)午前10時00分～11時20分
場 所 下野市役所国分寺庁舎304会議室
出席委員 杉原弘修会長、金子伸祿委員、小林経夫委員、尾花重吉委員、伊澤和子委員、高山幸子委員、青木ムツミ委員、岡本英樹委員、前原保彦委員
欠席委員 小山中井委員
出席者 広瀬市長、篠崎第一分野担当副市長、小口第二分野担当副市長、古口教育長、諏訪総務企画部長、川俣市民生活部長、毛塚健康福祉部長、齋藤経済建設部長、田中上下水道部長、石田教育次長
事務局 落合課長、小口主幹兼課長補佐、長主幹、金田副主幹、古口副主幹、坂本主事
傍聴者 1名

次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
- 4 報告書の提出
- 5 その他
- 6 閉会

会長挨拶

(杉原会長) 本日は、事前に配布した報告書の最後の確認となる。内容等について確認し、市長に報告したい。

議事

会議録署名委員の指名

(杉原会長) 今回の会議録署名委員は、金子委員と尾花委員にお願いする。

傍聴人の紹介

(杉原会長) 新聞社から写真撮影の申し出がある。認めることにしてよろしいか。

(委員) (承認)

(杉原会長) 反対がないようなので、傍聴と取材、写真撮影を許可する。

1) 会議録(第16回)の確認について

(杉原会長) 前回会議録の確認をお願いしたい。何か修正等はあるか。無いようなので、これを持って確定する。

2) 行政評価第三者評価報告書の取りまとめ

(杉原会長) 「第三者評価報告書(案)」についての議事に入る。まず、事務局より説明をお願いしたい。

(事務局) これまでの5回にわたる委員会での議論を踏まえて、報告書案を作成した。前回、構成案を提示しそれらに基づき作成しているが、構成案からは一項目、新たに追加している。目次をご覧くださいと分かるように「2 評価の役割分担」の項目をもうけた。これは、市民の皆さんに報告書をご覧ください際に、行政内部の評価と今回の第三者評価の役割の違いが分かったほうがよいのではないかと判断したためである。「3 評価の対象」については、市が選定した30事業を一覧表にした。「4 評価の視点」は、大きく3項目に基づいて評価をしたという内容を記載した。6ページからは評価結果を記載し、9ページ以降に個別事業の評価をまとめている。1ヶ所修正箇所がある。30ページの石綿セメント管更新事業のその他の個別意見の中に、「なお漏水は給水効率を悪化させる」とあるが、これを「なお漏水は配水効率を悪化させる」に修正願いたい。

(杉原会長) 意見があればお願いしたい。

(金子委員) 3ページの文章で「今回対象となった事業は～」以降の2行の意味が分からない。

(事務局) 行政評価には、大きく分けて3通りあると考えている。まずは小さい単位での事務事業の評価を行っているが、ゆくゆくはもう少し大きい単位である施策評価に移り、さらに政策という大きな単位で評価ができればと考えている。

(杉原会長) 他の方は、いかがか。

(青木委員) 33ページの「スクールアシスタント事業」の反対意見のところ、「出勤日数を減らしたことで優秀な人が皆やめてしまっている」とあるが、これは、別の表現にしたほうがいいのではないか。誤解を招く表現だと思う。

(杉原会長) 他の委員に、修正案はあるか。

(青木委員) 例えば「長年勤務していた人がやめてしまっている」といったニュアンスだと思う。

(岡本委員) 「経験豊富な人がやめてしまっている」ということではないか。

(杉原会長) 「経験豊かな人がやめてしまっている」という表現に変更したいがどうか。

(高山委員) 「経験豊かな人がやめてしまっている」で良いと思う。

(杉原会長) 反対意見のところは、参考に「こういう意見があった」ということを書い

ているので、あまり気にしなくて良いと思う。反対意見が、あまり丸くなくても良くない。

(前原委員) 評価報告書は、うまくまとめられたと思う。

(杉原会長) 特に意見が無いようであれば、今回の評価に加わっていただいて、何度か試行錯誤してきた感想をお一人ずついただきたいと思う。

(金子委員) 初めてのことで難しかった。「妥当でない」と下にさげる評価をするには抵抗があった。今後についての提案だが「おおむね妥当である」には、もしかすると妥当でない要素が入っているかもしれない。「まあまあ妥当」「あまり妥当ではない」など、ランクを分けたほうが良いのではないかと。評価対象の事務事業も、委員のほうから提案できると良いのではないかと。思う。

(小林委員) 評価結果としては十分だと思う。

(尾花委員) 事業の内容は大体理解したが、評価をすることは非常に難しい。中身が分かっていると、かえって遠慮してしまう部分がある。

(伊澤委員) こういう事業に関わったことが無いので難しかったが、いい勉強をさせてもらった。また、批判するだけでなく役所の苦勞も分かり、役所のジレンマとこちらのジレンマなど、いろいろなことが分かって勉強の機会になった。

(高山委員) 言いたいことを言ってしまったかもしれない。すごく難しく、事業の内容が分かっても全体の中でどういう位置づけなのか、なかなか見通せなかった。また、地籍調査事業などは国が中心的に行ってきた事業だと思うが、これを評価対象にした意図が良くわからない中での評価は、大変難しかった。

(青木委員) 難しかった。A～Fの位置づけを理解するのが難しく、また個人的な考えと評価委員としての立場を整理するのが難しかった。とても勉強になった。

(岡本委員) 今回の我々の評価は、内部評価の後で評価を行うという流れなので、どうしてもその結果に引っ張られてしまうように思えた。先に外部評価をやると、別の結果になったかもしれない。また、「妥当でない」という評価をされた事業について、今後市はどうするのか興味がある。区画整理など、地元と協議しながら合意してやっているのだから、これを変更するのは大変だろうと思う。

(前原委員) この評価が始まる前に、行革委員会で議論していた費用対効果やブランド・シーといった視点は評価の中でどうなるのか関心がある。

(杉原会長) 確かに評価は難しかったと思う。何か作ったものについて良いとか悪いとかの評価はしやすいが、今回の対象事業はそれだけとは限らず、それゆえに難しかったと思う。私にとっても大きな収穫だった。大学は人を評価するので、事業の評価は経験が少ない。これが市民にどう理解されていくか

は分からないが、更なる市民と行政のコミュニケーションを通じて理解を進めていかなければならない。これをもって本日の委員会を閉じたい。今後の進め方について、事務局からお願いしたい。

(事務局) これから、修正点を至急訂正して市長への報告書としたい。それまで、暫時休憩とさせていただきたい。また、本日の会議録については、次回の委員会開催までに時間があるので、これまでと同様に、委員の皆様へ会議録を送付するので、修正箇所等があればご指摘をいただきたい。

報告書の提出

(杉原会長から、広瀬市長に行政評価第三者評価報告書の提出が行われた。)

その他

(報告書の提出後、広瀬市長との意見交換が行われた。)

以上